

講師からのメッセージ

「肺がんから身をまもるには」

肺がんは、世界的に全がん種の中でもっとも高い死因となっています。肺がん死亡を減らすには、予防と早期発見が不可欠です。本講座では、予防については「喫煙」に、早期発見については「肺がん検診」に焦点を当て、「上手な医療機関の受け方」や「肺がん診断」も含めてわかりやすくお話しさせていただきたいと思います。

呼吸器内科部 医長 吉田 公秀

「肺癌の薬物療法。個性に応じた個別化治療の進歩」

肺がんは、医学の進歩した今日でも、発見時にすでに進行していることが多い難治性のがんです。進行していた場合には、薬物療法によってできるだけ進行を抑えることが治療の目的となります。薬物療法と言えばいわゆる抗がん剤しかありませんでした。しかし、ここ 10 年の肺がん研究の進歩により、組織型や遺伝子のタイプによって治療を個別に選択し、より有効な治療薬を選ぶことができるようになってきました。本講演では、できるだけ難しくならないように、最近の個別化治療の進歩についてお話ししたいと思います。

呼吸器内科部 医長 清水 淳市

「肺がんの手術はこわくない」

肺がんはがんの中でも治りにくいがんと言われていますが、早期に発見され適切な手術を受ければ十分に治ることを期待できます。実際、CT の普及に伴い早期肺癌と診断される患者さんは増えており、その結果手術で治る患者さんも増えているのが現状です。今回の講演では、普段私が手術を受ける患者さんとそのご家族に説明している内容を分かりやすくお話しする予定です。この話を聞いて、肺がんの手術に対して前向きに考えられるようになって頂ければ幸いです。

呼吸器外科部 医長 宇佐美 範恭

「手術室看護師のおしごと」

肺がんにかかる患者さんは全てのがんのなかでもっとも多いといわれていますが、早い段階で手術を受ければ治すことも可能です。当院では、手術が決定した患者さんを外来からサポートしていますので、手術に対する不安が軽減されないまま手術を迎えることはありません。また、私たち手術室看護師は、外来・病棟看護師、外科医、麻酔医と連携を図りながら、患者さんの術前の思いを共有して手術室での看護をしています。手術中は麻酔で意思表示ができない患者さんの代弁者となり、安全・安楽に手術が終了できるように実践している様子をお伝えいたします。

看護部 手術看護認定看護師 村井 律子